

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372600209		
法人名	有限会社 おおむら		
事業所名	グループホーム さくらそう		
所在地	岡山県都窪郡早島町早島2953-4		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念を毎朝唱和して日々笑顔で接するよう努めています。 ・各ユニットで毎月の目標をスタッフが担当制で決め1ヶ月朝唱和しています。 ・感染症対策に努め、1時間に1回の換気と、次亜塩素水の拭き取り、手指消毒の徹底。ワンケアワンプッシュを徹底し、ご家族様の面会を再開とテレビ電話を継続しています。 ・食事前には、口腔体操にしっかり参加していただき、口腔機能向上を目指し、おいしい食事を食べて頂いています。 ・外出時には、全ご利用者が外に出られるように企画に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者の思いを汲んだ支援をしています。例えば、自分の鞆が視界から見えなくなると誰かに取られたと思ひ込む入居者の場合は、介助中常に目に付く場所に鞆を置き、安心感を提供しています。夫婦で入居したが、夫の方が先に他界し、寂しさの余りに落ち込んでいる入居者がいました。同年代の職員が寄り添い気持ちを汲んだことで、今では通常の生活を過ごせるようになってきました。家族との関係継続の支援にも努めています。遠方の家族が訪れる機会が無かったが、何度も声を掛け続けた結果、会いに来てくれることになったそうです。また、各家庭の事情や入居者の状況をふまえた対応に努め、家族が安心して面会できるように声掛けを行っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、ホールに掲示し、いつでも目に入るようにしており、朝礼では職員一同で唱和して徹底している。	理念に掲げる「笑顔」が増えるよう日々努力しています。行事は、入居者も職員も共に楽しめるような計画を立てています。運動会は職員も参加し、競技の難易度を高めにして失敗を誘い、全員が笑う機会を作っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に散歩に出かけており、近所の方へ挨拶等してコミュニケーションを図っている。早島町のサロンに以前は参加していたが、新型コロナウイルス感染リスク、拡大防止含め、5類感染症になった現在も自粛している。	散歩に出かけ、地域の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしています。消防訓練や庭でバーベキューを行う際は、にぎやかになる事を考え、事前に挨拶回りをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事やイベントについて説明を行い、理解を深めている。以前は参加してもらえようように話していたが、新型コロナウイルス感染リスク、拡大防止含め、5類感染症になった現在も自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、施設での取り組みを報告をした時には、様々な意見が出ている。	運営推進会議では、事業所の取り組みを伝えています。参加者から質問やアドバイスがあり、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括支援センターに、何かあったときには連絡や相談を行い、助言を受けている。災害時にも連絡を下さる等、手厚い連携、協力関係が築けている。	運営推進会議には、市の担当者や地域包括支援センターの職員が参加してくれ、事業所の取組みを知ってもらえる機会となっています。会議の際は、地域包括支援センターからの紹介で入居した方に、声を掛けてくれます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は道路に面しており車の行き来が多いため事故防止のため施錠しているが、庭にはいつでも出れるように解放している。運営推進会議にて事業所での事例を挙げて、助言をもらい参考にしている。	外部研修にも参加し、知識の習得にも力を入れています。入居したばかりの立位が不安定な入居者が一人で歩いて帰宅しようとする際は、片手に杖を持ってもらい片方で援助し、納得するまで一緒に事業所内を歩いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会や全体会議にて、虐待防止の勉強会を予定して職員に理解を深めてもらえるよう企画し、周知するよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で勉強会を行っている。参加出来ない職員には資料配布やミーティング等で伝達講習を行い、職員間での認識の共通を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書にて十分に説明を行い、わかりやすく説明し、充分にご理解のうえでご入居頂いている。入居後も不明点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さくらそう通信にて活動報告をして運営に関する意見を聞く機会としている。また、家族の方にもまめに連絡をしている。家族からも連絡があり、状態説明、共有を行っている。	毎月、事業所の活動報告を通信で知らせています。電話や訪問時も日頃の様子を伝え、要望等を確認しています。入居者の病状について心配される家族には、医師からも連絡してもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議にて職員の提案、意見を聞ける機会を設けている。	日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、要望が言いやすい関係作りに努めています。ミーティングでも、意見を聞くようにしています。職員の子どもが発熱した時も、気がねなく休めるので子育て世代も働きやすい職場です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等でスタッフの意見を集め、施設の責任者、管理者が連携して、職場環境・整備を行って来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、徐々に、受講できるように管理者が率先して、各職員に適した研修をすすめ、職員が受講したい研修には、積極的に参加してもらえるように、勤務調整や受講費の負担等、資格取得しやすい環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と合同での訪問、出来る限り法人外への研修機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人へヒアリングをしながらアセスメントを取り、それを基にプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安を伺い、それを基に本人と話したうえでケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護に来てもらっている為、看取り希望の方も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの時間を多く設け、本人のやりたいことを出来るだけやって頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった際には連絡を行い、ケアの内容に問題がないか確認を行っている。 電話にて状態の説明を行い、ケアの内容を理解して頂ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで面会を自粛していたが、面会を再開し、ご家族様、ご本人様がゆっくりと話ができる空間を提供している。テレビ電話は継続し遠方の方も関係が途切れないように支援している。	面会は、人数や時間等の制限はあるが再開をしています。会うと不穏になるのではと心配し面会を控える家族には、帰宅した後はこちらに任せてくださいと伝え、面会の依頼をしています。遠方に住む家族でなかなか訪ねてもらえなかったが、声を掛け続けたことでようやく会いに来てくれることになった事例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや体操の時間を設け、入居者同士がほぼ毎日コミュニケーションを取っている。ソファや庭でお茶を楽しんでくつろいでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何かあった際には相談してほしい旨、退居時に話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴等をヒアリングし今までの生活を入居してからの生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。	日頃から入居者と会話し、要望等を汲み取り対応をしています。聞き取りが難しい場合は、筆談で思いや意向を尋ねています。毎日、全員で体操等のレクリエーションを行うが、無理強いはいりません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族、本人やケアマネージャーからヒアリングを行い把握した情報をアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えたのちに入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の様子を観察したうえ、タイムスケジュールを把握し、本人に合わせた生活リズムで生活して頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、ご家族の要望を聞き、どのような生活をしてほしいか、どうあってほしいかを担当職員が中心となり、職員全員と話し合って計画書を作成している。	介護計画の見直しは、最長で半年だが、短い期間でも見直す事もあります。担当の職員から入居者の状況を確認するが、カンファレンスでも全員の意見を聞いています。意思表示が難しい場合は、相手の立場に立って計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録をすることにより各自ケアプランの把握ができ、ケアの充実。毎朝、朝礼、申し送り、連絡ノート等を活用して職員が情報共有し介護の実践が出来る様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望などがあった場合には、家族、医師、職員が話し合い、検討を行い、ご本人様の希望に添えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調や身体の状態向上に資するため、買い物や散歩を実施。また、他職種の集まる会合に出席し地域資源の把握に努めていたが、新型コロナウイルス感染リスク、拡大防止含め、5類感染症になった現在も自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がかかりつけ医を担当し、連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。看護職による健康管理や週一回の訪問看護師との連携にて異常の早期発見に努めている。	往診対応をしてくれる協力医が入居者のかかりつけ医となっています。急変した時も対応してくれます。協力医以外の受診は、家族に病院への付き添いが可能かどうかを尋ねています。日程等で通院が難しい場合は、職員が対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化でも看護師に報告し早期発見、早期対応に努めている。訪問看護師にも同様に報告し密に連携を取っている。必要ならば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ面会に行き、担当医、看護師から情報を得て、退院時にしっかりケアが行えるよう医療機関との連携も大切にしているが、現在も面会が出来ない病院が多い為、電話で家族、病院関係者との情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期において出来る対応について家族に説明している。終末期は医療の必要が無ければ協力医と連携して、終の棲家となるよう、看取りを行うようにしている。	入居者と家族が希望し、継続的な医療行為が必要でない場合は、事業所で看取りを行っています。去年2名を看取りました。終末期には、入居者に寄り添い、こまめに状態を家族へ連絡していました。最期は、身内のほとんどが会いに来てくれ、ほぼ全員がお別れをすることができました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、急変時の対応については定期的に勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、5月と10月に避難訓練、12月に水害訓練を利用者様参加のもと実施している。改善点などカンファレンスをして次回につなげている。10月は消防署の方に来ていただき、訓練後の指導を受けている。	年2回火災訓練を実施し、その内の1回は消防署に来て指導をしてもらっています。今回の訓練では、電話機や排煙窓等の不具合で少し手間取ったが、消防署の指示の下無事に訓練は終了しました。消防署からも訓練内容を賞賛されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人一人を尊重するよう心掛けている。行事には入居者の嗜好を取り入れ、反映させている。日常的に趣味等を取り入れ、思い思いに生活を送っている。	お盆ふきなどを手伝ってくれた時、拭き方が職員の意図とは違ったとしても、感謝を伝えていきます。居室を片付ける時は、本人に必要なか不必要かを確認しながら片付けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前に思いを確認し、本人の意思、決定を尊重し、支援を行う。自己決定ができない利用者には、職員が本人の権利擁護を汲み取り、決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせてられるようにゆったりした時間配分にしている。個々によって希望されることが違うが、意に沿えるよう個別レクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整髪など身だしなみを整え、外出時には出来る限り、ご利用者様と共に服選びをしている。衣類の乱れが見られた時には、声を掛け整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りご飯の際には献立の中に好みを取り入れるよう工夫している。調理作業を分担し、取り組んでもらっている。食事は新型コロナウイルスの関係で職員とは別々に食べている。	テレビや広告を見て、「これが食べたい」と言われれば、手作りの日に提供をしています。ハンバーガーのCMを見て、これが食べたいと言われたので購入し、庭で食べたりもします。カップラーメンは数種類から選んでもらい、選べる楽しみも提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックし、体重と合わせて把握している。ケータリングのバランスの良い食事と、週2回の家庭的な手作りご飯を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでなるべく自力で食後の口腔ケアを行ってもらっている。自力でのケアが難しい方は介助にて行う。嚥下訓練も毎日行っている。また、歯科衛生指導に基づいて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時に誘導している。排泄介助において声掛けや誘導時に羞恥心、プライバシーの配慮を行っている。	トイレの訴えが多い入居者にはこまめに誘導をし、便座に座ってもらっています。パットを汚してしまったことを恥て色々な場所に隠す入居者への対応として、パットに時間を書き、尿意の把握をしています。トイレの扉は閉め、中の様子を伺いながら介助をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションや庭の散歩等の運動や食事内容を検討して、出来る限り薬に頼らず自然排便がみられるように支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認の上、入浴の誘導をしているが、拒否時には本人に納得してもらえる声掛けを工夫し、気持ちよく入浴できる支援をしている。入浴剤を活用したり、足洗スポンジを使用している。	2日に一度は入浴支援をしています。入浴を嫌がる入居者には、何度かタイミングを見計らって声を掛けています。耳に水が掛かるのを嫌がる入居者には、耳を押さえてもらったり直ぐにタオルを渡して拭いてもらったりするなどの対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が休みたいときには個々のタイミングで休息してもらったり、安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み、周知し職員に説明し、疾患や既往歴、何のために内服しているのかを理解するようにしている。また、内服時の変化がないか観察し、小さな変化でも協力医、看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことをしてもらえるように個別の対応ができるようにしている。気分転換に散歩やドライブ、毎月イベントを企画して楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出、散歩を企画し、戸外に出て季節を感じてもらおうようにしている。近隣の地域行事に参加出来るよう推進会議で話し合っていたが、新型コロナウイルス感染リスク、拡大防止含め、5類感染症になった現在も自粛している。	気候が良い日は、散歩に出かけています。天気が良い日は、庭でお茶や食事、ボール遊びなどしてもらっています。ドライブにも出掛け、人気のない場所では外に出て気分転換を図ってもらっています。	入居者全員が外出できる企画を検討していると窺いました。実現に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前までは、家族へ協力してもらい、自己管理をして貰っていたが、新型コロナウイルス感染リスク、拡大防止含め、他者との接触を減らす為、職員が対応を行う為、お金の所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を貸し出したり、手紙が出せるように一緒に書く等の支援をしている。最近では、テレビ電話を出来る環境を整備し、実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の管理に努め、湿度は30%を切らない様に定期的に確認し、必要に応じて加湿器で対応している。季節に応じた壁面の飾りつけを利用者と一緒に行っている。トイレやお風呂に張り紙をしてここが何の部屋かわかりやすくしている。	庭は人工芝にリフォームした為、以前のような段差が無くなり気軽に散歩が可能となっています。暖房器具を使用する際は、乾燥しないよう加湿器を付け湿度にも気を付けています。導線には物を置かない様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとテラス前に別々に分けてソファを配置しており、その時々のご気分を使い分けて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのあるものを入居時に持参して頂き環境作りに努めている。必要な物や利用者から訴えがあった時は、ご家族に連絡して自宅から持ってきて頂いている。	在宅時から使用していた家具や寝具等を持ち込んでもらっています。配置は、入居者と相談しながら行っています。化粧水や歯磨き粉にこだわりがある入居者には、そちらも持ち込んでもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持てる能力を理解し、活かせるようご飯の盛り付けやテーブル拭き等、自立支援を行っている。 はさみ等、危険なものを置かず、自由に行動出来る様環境の整備に努めている。		